

別紙2 計画全体に関する主な意見

分類	意見要旨
目標・将来像	満足度80%というのは何のために目指しているのか、みどりを守り増やすことで何を狙っているのか、わかりやすく示してほしい。
	みどりの活動に参加したい区民が多いため、自ら積極的に活動する区民を80%に増やすという目標があってもいい。
	みどりを増やす目的をもっと強調し明確にしてほしい。気候変動、健康増進やグリーンインフラなど明確な目的に共感できると、区民は行動しやすくなる。
	何のために取組むのかはっきりしないと、対策も中途半端なものになってしまう。どこまで踏み込むべきなのか明確にしてもらいたい。
	民有地のみどりが減少するなかで、公有地のみどりとして残す努力が必要だ。みんなで努力できるようにすればいい。
	計画の中では将来の骨格を示すことは重要であるため、どのようなところを優先してみどりを担保していくのか検討してもらいたい。
	景観や歴史性、文化性など総合計画の中に盛り込みにくい側面はあるが、このような視点も盛り込めないか検討してもらいたい。
	練馬区は面積がとても広いため、地域差があり、住宅地、みどりが豊富な地域、畑があるところと住宅が密集しているところ、それぞれ地域の特性に応じた積極的な手だてが必要と考える。 近年グリーンインフラや、グレーインフラという概念が出てきて、みどりの価値が変わってきた。気候変動やSDGsを施策の柱に出すべき。
計画の推進	個別課題ごとの今後の方向性は深まっているが、重複している課題もあるため、同時解決するためにジョイント事業ができないかなど、今までと別の観点で検討の幅を広げていくとよい。
	助成金は非常に大きな手段となるため、他の助成制度と連携するなど、有効活用する手段をもう少し発展させて進めてほしい。
	みどりがなくなると日陰もなくなり、そこに住んでいる生物もいなくなることから、カーボンニュートラルなどの環境施策と連携を図ってほしい。
	樹木へのCO2表示板など、環境教育などの取組とも連携してほしい。
	これまでのみどりの実態調査では把握していない重要な樹林地の質的状況、例えば、ナラ枯れ等の状況や土壌環境なども重点的にモニタリングしたほうがいいのではないかと。市民と協働でモニタリングをすることで、活動のきっかけにもなると考える。
	事業を進めていく上で、区民理解を得ることが大事であるため、計画はわかりやすく共感できる表現とし、周知を図られたい。また事業を進めるにあたっては、委員からのアイデアや意見を参考にし、内容によっては計画にも記載してほしい。